

防護柵の種類と設置・管理の基本

今月は、田畑を鳥獣被害から守る防護柵について紹介します。

防護柵には、ワイヤーメッシュや金網フェンスなどの「物理柵」と電気ショックを与えて防ぐ「電気柵」があります。電気柵は、一度触れると恐怖感を与える学習効果があるので、心理柵とも呼ばれています。ただし、4,000V以上の電圧が必要です。物理柵の耐久性は10年以上ですが、電気柵のポリワイヤーは通年設置の場合には5年程度で交換が必要です。

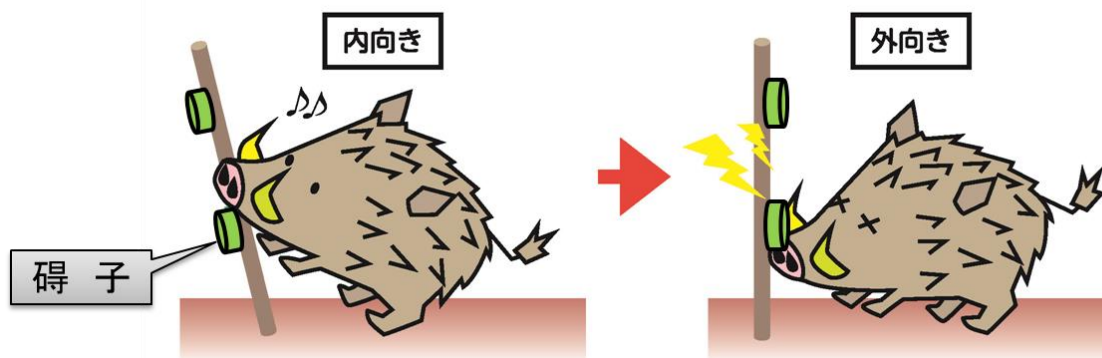
ワイヤーメッシュには様々な大きさのマス目がありますが、イノシシのウリ坊が侵入できない10cm四方のものを選びます。また、イノシシが口で引っばっても壊れないようにワイヤーメッシュの外側に縦棒がある面をイノシシ側にして設置します。

防護柵に必要な高さは、獣種によって異なります。物理柵ではシカは2m、イノシシは1.2mです。また、電気柵の電線は、イノシシとクマは地面から20cm間隔で3段、シカは下部を20cm、中・上部を30~50cm間隔にして5段を設置します。

とくに、電気柵で注意したいのが碍子の設置方向です。下草がしっかりと管理されている電気柵でも碍子が反対方向を向いているものをよく見かけます。碍子は、動物側に設置しないと倒されて侵入する場合がありますので注意しましょう。

近年は、集落の周囲などに広域に渡って防護柵を設置するケースが多くなりました。設置後は集落ぐるみで、物理柵は月1回程度、電気柵は週1回程度の定期的な見回りによる点検作業が不可欠です。

(島根県中山間地域研究センター 鳥獣対策科 澤田誠吾)



電気柵の碍子は必ず動物側に設置する